

特43

997

一代記



出陣

達人之男二有

○多し
の
歴
を
一
に
父
と
吉
屋
の
娘
と
結
ば
し
て
有
り
云
ふ
に
此
の
時
に
有
馬
氏
の
領
内
に
有
り
也

▲ 降情之良二男
七三入ある内次
男七之助初道也
連一はを
を懼心を防
んぬ給ふ
父の勤を業り夫あり
有馬長平治と終有馬
と二乃対とくは六有馬かつ
宗水大と終の敵打とと

切て給ふと助わにも除近考者切を切給近考者向一肥後宮
の偉人實哉清心宗末之業武左所位人教多召達等
因





吉原

おれは吉原の
おれは吉原の
おれは吉原の

おれは吉原の
おれは吉原の
おれは吉原の

おれは吉原の
おれは吉原の
おれは吉原の

武右衛門

おれは吉原の
おれは吉原の
おれは吉原の

おれは吉原の
おれは吉原の
おれは吉原の



武右衛門

おれは吉原の
おれは吉原の
おれは吉原の

おれは吉原の
おれは吉原の
おれは吉原の

つぎ

久助を撃つ

姫治公

さきさきと

せひよほさん

又對面せん

けりなは

ゆけねを

の宅に至り

入るや本細の仕合



吉田三奪

げね

の上劫奪

合

佐々木岸柳

と世念

又岸柳

ておは

又岸柳

は

腕

と



晴さん

次

急

急

修者必修徳と云は

藝あらずに吉原の化け
夜半の及びぬりたるは
短刀を以て針殺し

つゞきの事途去る

此のまゝ子清の郎
安大よん下病身

無二齋

歌古の
歌古を上げ小輝之公許
一むらぬ海が分七まぬ
ハ佐末お徳の者



と云は

くさぬ

又父の

横死

佐末の

あり

と云は



佐末

小輝

佐末

と云は

は由飛札を

と云は

佐末岸柳

佐末清正

公の作

公あり

母之口

正明

と云は

と云は



西明と号りて氏
 若徳の生る
 了下先
 又多の兄小対面
 姉妹の次才を兄
 又徳の岩柳あり
 下へ降りやうまを
 又徳岩柳の徳

一人の官女
 左の母三四
 又徳の
 共よ
 白服の女

我ハ小刑の月神の
 又あり悲き
 又あり
 英雄の
 百年を
 又あり



依中必へ志
 依中必へ志
 依中必へ志

世三四正明
 世三四
 世三四
 世三四



三三三のいかにあつて押
 裁き能き人の後の
 他あり宗本のあつてお
 友共の消らせたりや
 短刀を懐中
 初め未だあつてあつて
 廣の短刀物夾の由
 面々
 宗本無二四
 なる宗本のあつてあつてあつて
 子のあつてあつてあつてあつて
 拭きあつてあつてあつてあつて
 宗本のあつてあつてあつてあつて

宗本
 先生
 山金
 申者



今このあつてあつてあつてあつて
 雨表あつてあつてあつてあつて

ひろりあつてあつてあつてあつて

宗本
 先生
 山金
 申者



其の立ちよはして
 さむらの世三四
 おもあまの程ありし
 久々の逢を我が君
 の庵ん茶よ何さむさ
 りをあらしておとんと
 の二刀を戦ふよ家本
 始め急やくんが一声
 さうんでおは
 一刀彼の交格
 ト右のかて
 先切付る

山の下
 小倉
 余傳
 夜小
 白
 倉傳



右翼
 大物
 香く
 香く
 香く
 香く

若や欲のみ
 文入
 文入
 文入
 文入



とき九砂の懐
 人衣 懐 懐
 白者ありといふ
 此若者懐
 あらど面白 密原の浮田殿の一家中
 の隙 靴白倉侍五右衛門殿の
 室本と藝古切へともあひ
 白倉侍
 了 對面あり先つ身と立合
 まさくするふ十八人者
 居へる 侍五右衛門
 る 獲りしをいふま本小つき



又さる者あり
 さる者あり志
 をいふ 後
 我々いふ
 二世三四小打
 負へる 侍五右衛門
 白倉侍
 又必ひとまきとま本を
 今こつ身と人まを
 多うり 世三四あり 侍五右衛門
 日くたる古をたし 押もいふ
 是を止めたり 野てある日



風の柱を
お殺
室を打

ふんせ
てね程小日ハ早

て白念が悉
小浴
室を打
破りさ
ぐぬ糸
を叩き
あはし



本巻四

風の柱を
よとまふさ
あつた湯
屋まふる
てまじあ
と兄ハ湯
屋と新付
左ハ握口より
熱湯をそぎ

風の柱



明治十年一月一日御届

日本橋区

亀井町廿番地

澤久次郎

つぎ

巻下山

中よなぶこ

迷ひ

△おろり

の根の木

※隊ま主人の声や元

事とて言ふ本と大ひき

旅ひ推分 獵人あらんお

まぬもとくあんなちと

まんと早足あそび

まらけ二人の山賊

まらけ主人の着きて

女とさるまこと

まらけいほしめ

まらけあしけせ

まらけさるまへる

より宮本武蔵と

下巻



明治十年一月一日御届

日本橋區

亀井町廿番地

澤久次郎

より宮本いつと [下巻]

△ちのり内
の松の木
△ちのり内
の松の木
△ちのり内
の松の木

△ちのり内
の松の木
△ちのり内
の松の木
△ちのり内
の松の木

△ちのり内
の松の木
△ちのり内
の松の木
△ちのり内
の松の木

△ちのり内
の松の木
△ちのり内
の松の木
△ちのり内
の松の木

